

授業アンケート(平成26年度後期)実施結果

1 実施対象科目数と回答者数等

| カリキュラム | 課程 | 講義数 | 受講者数 | 回答者数 | 回答率 |
|---------------------------|------|-----|-------|-------|-------|
| 旧カリキュラム (平成25年度以前入学生) | 共通課程 | 9 | 238 | 195 | 81.9% |
| | 専門課程 | 76 | 4,529 | 3,010 | 66.5% |
| 現行カリキュラム (平成26年度以降入学生) | 専門課程 | 18 | 1,045 | 921 | 88.1% |
| | 教養課程 | 36 | 1,713 | 1,391 | 81.2% |

2 集計結果

各設問について、「強く思う←6・5・4・3・2・1 →全く思わない」から数字を選択。

選択された数字の平均値を評価結果とした

(1)旧カリキュラム(平成25年度以前入学生)

①共通課程

| 設問内容 | | 評価結果 |
|------|---|------|
| 1 | 教員は、シラバスの説明を通じ、授業の到達目標や意義・価値・有用性などを明確に伝えた | 5.60 |
| 2 | 教員は、シラバスに記載されている「講義計画及び課題」に沿って講義を行った | 5.54 |
| 3 | この授業は、到達目標の達成に資するものだった | 5.59 |
| 4 | この授業は、その内容に対する関心を受講前よりも高めるものだった | 5.63 |
| 5 | 教員は、授業のテーマや内容をより広い問題や事柄に結びつけるように指導した | 5.58 |
| 6 | 教員は、学生のレベルや理解度をよく把握して授業していた(予習・復習の遂行が前提) | 5.58 |
| 7 | 教員は、授業内容に対する興味や勉強意欲がわくような工夫や努力をしていた | 5.59 |
| 8 | この授業に対する教員の熱意が感じられた | 5.64 |
| 9 | この授業は、本学の「人材育成目標」及び「教育目標」のいずれかに寄与する授業であった | 5.19 |
| 10 | この授業の受講環境は適切であった(教室等のサイズ、照明、視聴覚機材等) | 5.59 |

②専門課程

| 設問内容 | | 評価結果 |
|------|---|------|
| 1 | 教員は、シラバスの説明を通じ、授業の到達目標や意義・価値・有用性などを明確に伝えた | 5.35 |
| 2 | 教員は、シラバスに記載されている「講義計画及び課題」に沿って講義を行った | 5.36 |
| 3 | この授業は、到達目標の達成に資するものだった | 5.36 |
| 4 | この授業は、その内容に対する関心を受講前よりも高めるものだった | 5.34 |
| 5 | 教員は、授業のテーマや内容をより広い問題や事柄に結びつけるように指導した | 5.39 |
| 6 | 教員は、学生のレベルや理解度をよく把握して授業していた(予習・復習の遂行が前提) | 5.24 |
| 7 | 教員は、授業内容に対する興味や勉強意欲がわくような工夫や努力をしていた | 5.27 |
| 8 | この授業に対する教員の熱意が感じられた | 5.48 |
| 9 | この授業は、本学の「人材育成目標」及び「教育目標」のいずれかに寄与する授業であった | 5.33 |
| 10 | この授業の受講環境は適切であった(教室等のサイズ、照明、視聴覚機材等) | 5.47 |

(2) 現行カリキュラム(平成26年度以降入学生)

① 専門課程

| 設 問 内 容 | | 評価結果 |
|---------|---|------|
| 1 | 教員は、シラバスの説明を通じ、授業の到達目標や意義・価値・有用性などを明確に伝えた | 4.89 |
| 2 | 教員は、シラバスに記載されている「講義計画及び課題」に沿って講義を行った | 4.89 |
| 3 | この授業は、到達目標の達成に資するものだった | 5.14 |
| 4 | この授業は、その内容に対する関心を受講前よりも高めるものだった | 5.18 |
| 5 | 教員は、授業のテーマや内容をより広い問題や事柄に結びつけるように指導した | 5.27 |
| 6 | 教員は、学生のレベルや理解度をよく把握して授業していた(予習・復習の遂行が前提) | 5.07 |
| 7 | 教員は、授業内容に対する興味や勉強意欲がわくような工夫や努力をしていた | 5.16 |
| 8 | この授業に対する教員の熱意が感じられた | 5.30 |
| 9 | この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのいずれかに寄与する授業であった | 5.12 |
| 10 | この授業の受講環境は適切であった(教室等のサイズ、照明、視聴覚機材等) | 5.32 |

② 教養課程

| 設 問 内 容 | | 評価結果 |
|---------|---|------|
| 1 | 教員は、シラバスの説明を通じ、授業の到達目標や意義・価値・有用性などを明確に伝えた | 5.03 |
| 2 | 教員は、シラバスに記載されている「講義計画及び課題」に沿って講義を行った | 5.05 |
| 3 | この授業は、到達目標の達成に資するものだった | 5.32 |
| 4 | この授業は、その内容に対する関心を受講前よりも高めるものだった | 5.41 |
| 5 | 教員は、授業のテーマや内容をより広い問題や事柄に結びつけるように指導した | 5.42 |
| 6 | 教員は、学生のレベルや理解度をよく把握して授業していた(予習・復習の遂行が前提) | 5.26 |
| 7 | 教員は、授業内容に対する興味や勉強意欲がわくような工夫や努力をしていた | 5.34 |
| 8 | この授業に対する教員の熱意が感じられた | 5.54 |
| 9 | この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのいずれかに寄与する授業であった | 5.35 |
| 10 | この授業の受講環境は適切であった(教室等のサイズ、照明、視聴覚機材等) | 5.46 |

3 アンケート内容に関する参考事項

(1) 人材育成目標、教育目標(平成25年度以前入学生向け)

| |
|--|
| <p>人材育成目標</p> <ul style="list-style-type: none">① 人間教育によるグローバル・リーダーの育成② 総合力を備えた専門家の育成 <p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none">① 英語とICT(情報通信技術)の高度な運用能力の養成② 比較文化、コミュニケーション、国際関係についての専門知識を総合的に身につけて、さまざまな角度から事象や情報をとらえることができる能力の養成③ 総合的に習得した専門的な知識と技能を社会生活において表現し活用できる能力の養成 |
|--|

(2) ディプロマ・ポリシー(平成26年度以降入学生向け)

| |
|--|
| <p>ディプロマ・ポリシー(本学の教育が目指す卒業時の学生の姿)</p> <ul style="list-style-type: none">① 3専攻※の1つを体系的に学修するとともに、専攻を横断する学修を通じて、国際的視野を広げ、人間文化の現代的課題を探求する能力を身につけている。② 講義と演習を通じて、専門知識とアカデミック・スキルを修得するとともに、論理的思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力、異文化対応力、および社会人としての基礎力を身につけている。③ グローバル人材養成プログラムへの主体的な取り組みによって、高度な英語コミュニケーション能力、中国語と韓国語のコミュニケーション能力、実社会で必要とされる情報処理能力を身につけている。④ 人文学、社会科学、自然科学、スポーツ健康、キャリア教育の各分野の学修を通じて現代的教養を身につけている。 |
|--|

※ ①言語・文化専攻 ②メディア・コミュニケーション専攻 ③国際政治経済専攻